

平成30年度
隠岐ユネスコ世界ジオパーク
学術研究発表会

明屋海岸（海士町）

日時：①島前：平成31年**3月9日**（土）
13:30～16:00

②島後：平成31年**3月10日**（日）
9:00～13:00

会場：①島前：至誠館（西ノ島町別府56）
②島後：島根県隠岐支庁本館 6F 大会議室
（隠岐の島町港町塩口24）

入場料：無料



*会場によって、発表項目が異なりますので、
ご確認の上お越しく下さい。
*発表者は、裏面をご覧ください。

主催：隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会
TEL: 08512-3-1321

発表内容

前後 隠岐諸島における鬱陵島起源のテフラの検出と古環境変遷の検討

中西 利典（日本原子力研究開発機構）

約2千年前に韓国鬱陵島火山から噴出したと思われる火山灰を海士町で検出して英文学術論文で査読審査中です。隠岐の島町犬来の男池でも検討を進めて、日本で最も詳しく解析されている福井県水月湖での研究成果と対比した。

全隠岐史の解明：始生代～顕生代における隠岐諸島地史の解明を目指した岩石学および層序学の総合

後 (1) 隠岐片麻岩の変成・変形作用

吉田 宏（島根大学）

隠岐片麻岩は古い大陸の岩石を起源とし、高温な地殻内で一部が融けたり、流動的に変形したことで縞状構造をもつ岩石となっている。隠岐片麻岩の形成史を、縞状構造の観察と微小な鉱物の化学分析により読み解く。

後 (2) 島根県隠岐島後の変花崗岩 ～隠岐は飛騨と繋がっているのか～

藤原 まい（島根大学）

島後には日本最古級の鉱物を含む片麻岩がある。従来これは飛騨の片麻岩と一括され「飛騨-隠岐帯」を造るとされた。しかし最近、これに反するデータが出始めた。本研究では片麻岩中の花崗岩からその繋がりを探る。

後 (3) 隠岐島後、久見層の放散虫化石

宮本 広富美（島根大学）

ガラス質の骨格をもつ微小な生物「放散虫」の化石は地層の年代を決めるのに役立つが、隠岐ではほとんど研究されていない。本研究では久見地区に分布する久見層から、日本海拡大最初期の放散虫化石を初めて報告する。

後 (4) 日本海ができ始めた頃の地層の調査：隠岐の島町東部に分布する郡層

山田 稔紀（島根大学）

隠岐の島町大久から飯田地区にかけての範囲で、およそ2100～1600万年前の地層である郡層と呼ばれる地層の地質調査をした。ここでは調査の結果と共に、新たに見つかった大地の変動の痕跡について報告する。

後 オキタンポポ保全のための送粉生態学的研究

宮永 龍一（島根大学）

隠岐諸島の固有種であるオキタンポポの繁殖には花粉の受け渡しを請け負う「送粉昆虫」が不可欠である。どのような昆虫がその役割を担っているのかについて調べた結果を報告する。また、外来タンポポが送粉者を通してオキタンポポに及ぼす影響について検討する。

前 隠岐島前におけるオキサンショウウオの分布実態の解明

高原 輝彦（島根大学）

隠岐固有種オキサンショウウオは国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストに記載され、希少種としての保全が急務である。本発表では、革新的な生物モニタリング手法の環境DNA分析と飼育実験の結果から、島前・島後における本種の分布実態を考察した内容について報告する。

島根大学による隠岐の研究紹介

前後 海士町諏訪湾周辺での津波堆積物調査報告

藤原 勇樹・酒井 哲弥（島根大学）

過去の津波の痕跡を探るために海士町諏訪湾南方の平野の4地点でボーリングを行い、地下の堆積物を採取した。堆積物の観察や年代測定、化石の分析より、津波が襲来した可能性を示す痕跡を発見した。

前：島前会場（至誠館）

後：島后会場（島根県隠岐支庁本館 6F 大会議室）